第３学年　道徳学習指導案

３年　２１名
指導者　重本　伴子

１　主題名　本当の友達

２　主題設定の理由

＜ねらいとする価値について＞

２－（３）	友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。

３年生の子どもたちは，気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し，楽しもうとする傾向が出始める。集団での活動がこれまでになく盛んになる一方で排他的になったり，自分の利害に基づく衝突が起こったりもする。そのような時に，自分の思いを出し合ってお互いを理解しようとすることは,信頼や友情を深める上で大切なことと考えられる。このような時期の子どもたちには健康的な仲間集団を育成し，友達のことを互いによく理解し，信頼し，助け合うことの大切さを指導する必要がある。

＜子どもの実態について＞

本学級の子どもたちは，明るく活動的で，休み時間には誘い合って仲良く遊べている。だんだんと友達関係が固定してきており，気の合った者同士で行動をともにすることも多くなってきた。そのなかで，自分たちだけの利害を優先して排他的になったり，仲の良い友達の言動が誤っていても同調したりと,偏った仲間意識をもつ傾向も見られるようになってきた。子どもたちには,共に成長していけるような友達関係をつくっていってほしいと願っている。そのためには，よくない言動については注意し合ったり，励まし合ってよい点を共に伸ばしていったりすることができるような関係を築いていく必要があると考えている。

＜教材について＞

教材名：「きっとわかってくれる」（学校図書『かがやけみらい』３年）

本資料は，主人公のかおるが自分の行為に対して自己擁護し，それを友達にも同調を求めるが，逆に自分への指摘という結果に愕然とする様子がえがかれている。この中で，仲の良い友達ののり子のとった行動は，よりよい友人関係を育てていく上では大切なことであることに気付かせ，真の友情について考えさせたい。

３　道徳の時間の指導の工夫

とらえ方によっては，のり子の言動を裏切りと受け取ったり，かおるに対する非難から話し合いが一方的になったりする可能性もある教材であると考えられる。そこで,「もうあんな人，友達なんかじゃない！」という言葉を手がかりに，かおるのもつ友達観について話し合うことにより，本当の友達について考えを深め，価値に迫りたい。（展開Ａ―イ（ⅱ））

４　ねらい

友達を大切にすることについて考えを深め，よりよい友人関係を育てようとする態度を養う。

5　展開

学　習　活　動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点
1　友達について話し合う。	○友達がいてよかったなと思うのはどんなときですか。 ・一緒に遊んでいて，楽しい。 ・困った時，助けてくれる。	○友達のよさについて話し合い，価値への方向付けをする。
2　資料を読み，かおるとのり子の考えについて話し合う。	○日直の番が回ってきたとき，かおるはどんな気持ちだったでしょう。 ・安夫君と一緒にやりたくない。 ・さぼってしまおう。	○場面絵から，やりたくないかおるの気持ちをとらえさせる。
	○帰りの会で，かおるはどんな気持ちでのり子を見たのでしょう。 ・きっとのり子さんなら分かってくれる。 ・きっと私の味方をしてくれる。	○友達だからかばってくれると思っていた期待感に気付かせる。
	○「もうあんな人，友だちなんかじゃない！」と叫ぶかおるの言葉から，本当の友達とは，どんな友達か考えてみましょう。 ・かおるは，どんな時でも味方してくれるのが友達だと思っている。 ・よくないことを注意しないことは，友達のためにはならない。 ・よくないことはよくないと言ってくれるのが本当の友達だと思う。 ・のりこさんは本当の友達だ。	○期待に反した結果に，いたたまれない気持ちになったかおるについて考えさせる。 ○かおるの思うよい友達とはどんな友達なのか考えさせる。 ○かおるの友達観について否定的な考えを引き出し，本当の友達についての考えを深められるようにする。
3　自分たちの友達関係について話し合う。	○友達に注意されて，よかったことはありますか。 ・危険な行動を注意してくれた。 ・注意してくれて，きまりを守ることができた。	○お互いのことを信頼し思い合って，何でも言い合えるような関係が大切であることに気付けるようにする。
4　教師の説話を聞く。	○先生にもにたような経験があります。	○実践への意欲がもてるようにする。

6　評価

よりよい友達関係とは，忠告し合うことも含めてお互いに何でも言い合える関係であることに気付くことができたか，発言やワークシートをもとに評価する。